

# 誰にでもできる点検と整備

車いす安全整備士などの専門家ではなく、「日常お使いいただいている方」に点検をしていただき、事故などを未然に防いでいただきたい内容となっております。

## フットサポート

### (1) フットサポート(貫通式)の仕組み



ボルトを  
締める

パイプに直接穴が空いており、そこにボルトを通して固定されています。ボルトの締付が緩いと、プレートを上げても落ちてくるため、しっかりと増し締めをしてください。

※工具は車椅子の後ろポケットに入っている場合が多いのでそれを利用してください。

### (2) フットサポート(ウェッジ式)の高さ調整



ボルトを  
緩めると  
調節可能

ボルトを  
締めて固定

高さの調節はフットサポート裏側にあるボルトを緩めるとできます。

調節後はしっかりと締め、固定させます。

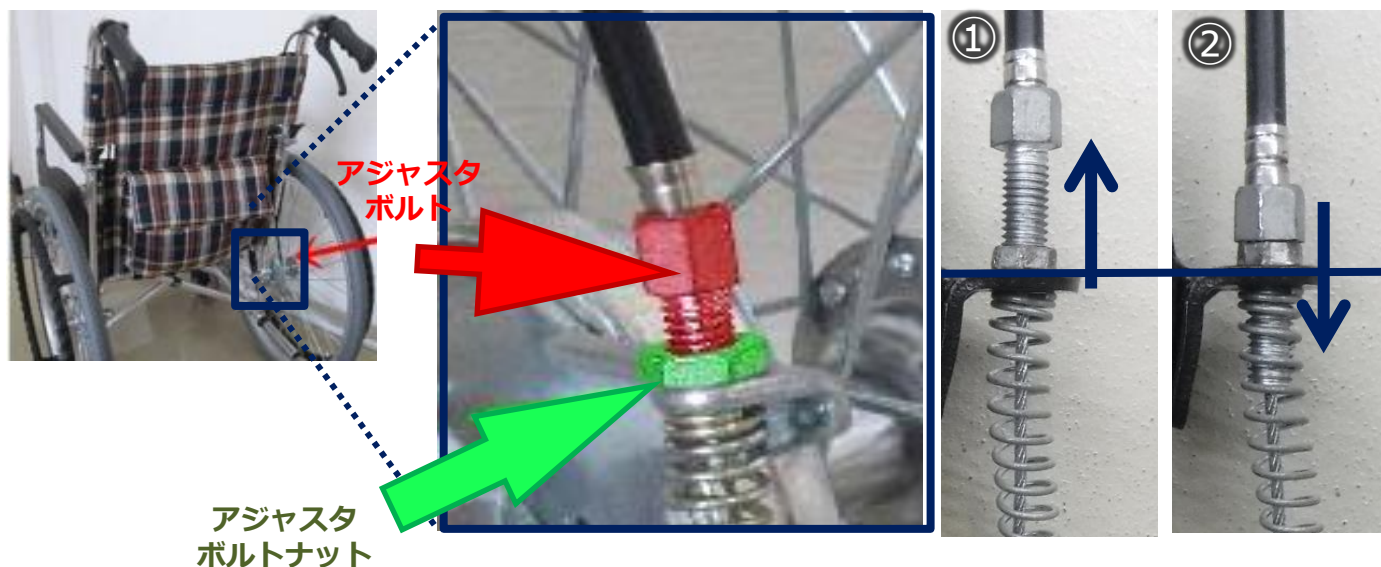
段差を考慮して床から5センチ以上の高さで固定させてください。

### (3) フットサポートの調整後の確認

- ①フットプレート(足置き部分)が簡単な力で降りないかを確認してください。
- ②フットサポートが抜けないか、もしくは前後方向に簡単な力で動かないかを確認してください。

## 2. 制動用ブレーキ(介助用ブレーキ)の微調整

### ～アジャスタボルトによる微調整



アジャスタボルト(写真だと赤色部分ののボルト)を上にはげるとブレーキが強くなり(写真①)、反対にアジャスタボルトを下に下げるとブレーキが弱くなります(写真②)。

調整は下のアジャスタボルトナット(写真だと緑色部分のナット)を緩めてから行い、調整後は必ずアジャスタボルトナットを締めてください。

調整後はブレーキの利きを確認をしてください。

タイヤを空転させブレーキが当たっていない(回転負荷がないか)か確認してください。

アジャスタボルトはあくまで微調整(ワイヤが劣化したら交換必須)

アジャスタボルトで効きが調整できなくなった場合は専門家へ

### 3. タイヤと駐車用ブレーキ（空気を入れる重要性）

空気が抜けていると車椅子を押す時、重くなります。  
また駐車用ブレーキの利きが悪くなりますので空気の確認は重要です。

タイヤの空気は自然に抜けますが新品では抜けにくいです。  
タイヤの空気がよく抜ける場合は、以下のような劣化を確認し、  
タイヤ交換かまたはタイヤの中のチューブ交換を行ってください。

#### (1) タイヤの劣化見本

##### 摩耗



##### 硬化→破損



##### ひび割れ



## (2) プランジャ (虫ゴム必要タイプ・虫ゴム不要タイプ)

タイヤに空気が入らない、パンクかな?と思ったときこのプランジャという部品の劣化や破損の場合が多いです。プランジャの確認を行い、異常がありましたら交換してください。

左の写真の赤枠部分の中身を確認します。

虫ゴムタイプと虫ゴム不要タイプのプランジャが入っています。



### ① 虫ゴム必要タイプ



ゴム部分に破損がみられたら交換してください。

### ② 虫ゴム不要タイプ (スーパーバルブ)



見た目では劣化確認ができない。

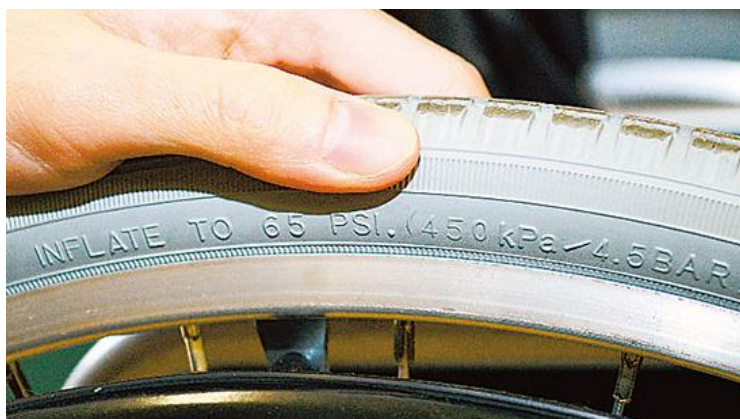


### (3) タイヤの空気入れ

駐車用ブレーキはタイヤに押し当ててブレーキをかけています。そのため空気が抜けるとブレーキの利きが悪くなり事故につながります。

駐車用ブレーキが効かなくなったらまずは空気を入れてみましょう！

①まずタイヤ側面に記載されている適正空気圧 (kpa、PSI等の圧力単位) 確認してください(写真↓)



ここでは65PSIと450kPaと  
かかれてあります。

単位が違うだけで65PSIと  
450kPaはどちらも同じ量の  
空気圧です。

②上記の適正空気圧を入れていきます。  
この場合、写真↓のような目盛り付きの空気入れが必要になります。  
※800キロパスカル程度まで入る高圧タイヤ用がおすすめ！



- 値段は3,000円程度。
- 虫ゴムの場合はメモリ表示程入っていないため、メモリから+100kPa程度入れる※スーパーバルブはそのままで大丈夫)
- チェックの頻度は新品でも最低一か月に1回は必要です。劣化している場合はもっと確認してください。